

Writing Support Center News Letter

ライティングサポートセンターニュースレター

No.003 発行日：2021年4月5日

ライティングサポートセンター・ニュースレターは、当センターの活動を、先生方により知っていただき、ご活用願うこと、学生に向けて利用を促していただくことを目的に発行しています。

巻頭言

学修支援の要としての ライティングサポートセンター



副学長・文学部教授
安藤 徹

龍谷大学にとって、ライティングサポートセンター（以下、「センター」）は学修支援の要です。そのことを三つの観点から考えてみます。

一点目は、センターがラーニングコモンズ（以下、「LC」）内に置かれているという事実です。そもそも、LCは施設（場所）、コンテンツ（情報）、サポートの三要素がそろってはじめて、その機能を十分に発揮できます（参考、国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会『ラーニング・コモンズの在り方に関する提言』2015年）。このうち、本学のLCにおいてサポート（人的支援）を主に担っているのが、センターの活動です。学生の主体的で多様な学びを支援するために設置されたLCが、その使命を存分に果たしていくためには、センターが不可欠です。

二点目は、センターで活躍するライティング・チューター存在です。チューターをつとめているのは大学院生です。院生は学部生にとって“斜め上”の存在です。一般に、学修支援を受ける側とする側には、学生—教員という垂直的な関係、学生—学生という水平的な関係、学部生—院生あるいは下級生—上級生という傾斜的な関係の三類型が想定されます。これらがうまく組み合わさることで、教育効果は高まると考えられます。センターのチューターは、傾斜的な教育・学修関係のなかで学生を支援する重要な位置を占めています。

三点目は、「書く力」の重要性です。井下千以子『大学における書く力考える力』（東信堂、2008年）は、「「書く力」を突き詰めていくと、結局「考える力」が大事だということになる」という一文から始まります。（次頁につづく）

「書く力」は「考える力」と深いかわりがあるということです。そうであるならば、ライティング支援は、たんに“評価されるレポートの書き方”をサポートするためにはないこととなります。むしろ、大学での学びの根幹にある「考える力」を身につけさせることにこそ、その本来の目的があると言えます。こうした目的を達成すべく、センターは存在しています。

私自身、センターの前身となる LC でのコモンズチューターによるライティング支援の開始以来、担当する授業の受講生にはレポート作成時等における積極利用を促してきました。ときには、個々の学生にセンターへ助言をもらいにいくよう直接指示することもあります。それは、ライティングが大学での学びの肝になると考えてきたからです。そして、センターが教員による教育指導を補完し、その効果を高めてくれるにちがいないと確信してきたからです。その考えと信念は、いまもゆらぐところがありません。

2020 年度、センターはコロナ禍で困難な状況にもかかわらず、学修支援を中断させないよう新たな方法を探り、工夫を重ねながら活動をつづけてきました。それは、ライティングサポートのあり方を問い、アップデートさせるよい機会にもなったと思います。2021 年度には、学修支援機能を強化したセンターの活躍を見られるにちがいありません。私の期待は高まるばかりです。

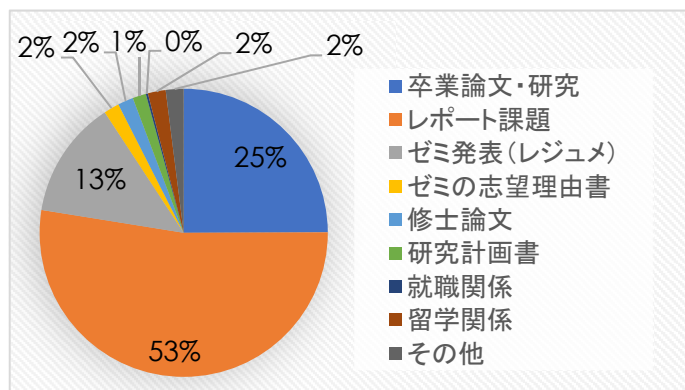
ご報告 2020 年度の実績

(1) 相談者総数：388 人（のべ、前期：169 人／後期：219 人）

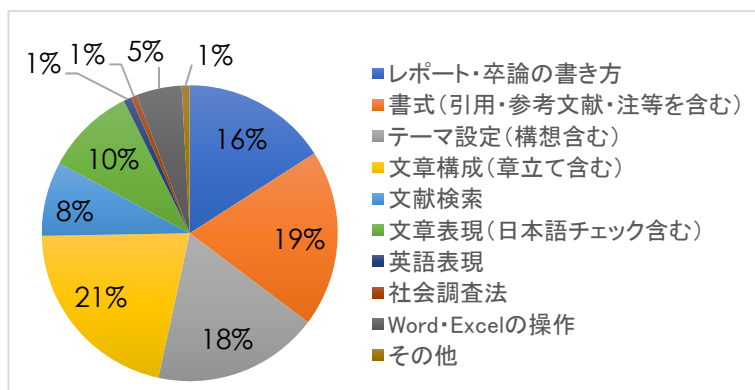
*相談枠を 60 分に設定しているため、60 分の区切りで算出している。なお、本年度は、オンライン対応のため、例年の 45 分区切りと異なっている。以下、特記しないかぎり、60 分区切りによる算出。

(2) 相談内容

【相談内容種別の割合】



【相談内容性質の割合】



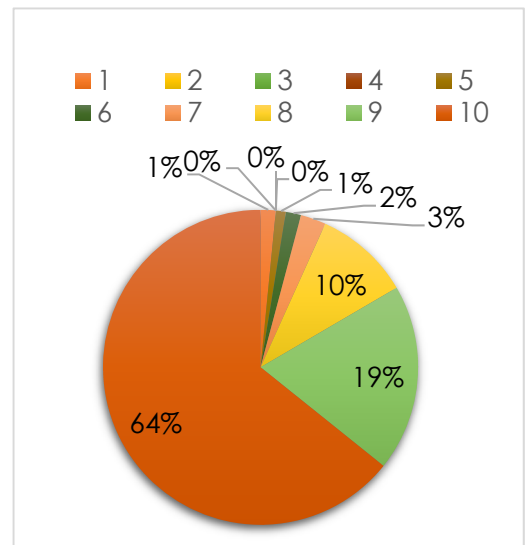
(3) 学部（大学院）・学年別 *単位：人

	文	経済	経営	法	政策	国際	理工	先端理工	社会	農	短期大	学年合計
1年	32	8	11	1	5	108	—	4	9	9	1	188
2年	14	0	0	7	2	13	1	—	2	1	7	47
3年	4	0	3	0	2	3	1	—	30	2	—	45
4年	3	4	1	0	16	20	0	—	37	6	—	87
5年	5	0	0	0	0	0	0	—	0	0	—	5
6年	1	0	0	0	0	0	0	—	4	0	—	5
修士	5	0	0	0	2	4	0	—	0	0	—	11
学部合計	64	12	15	8	27	148	2	4	82	18	8	388

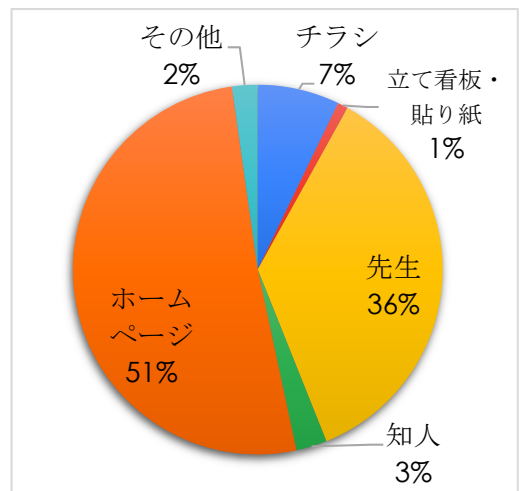
(4) 学部・研究科・学科別 ＊単位：人

学部／研究科	学科・専攻・課程	相談者数	合計	2019 相談者数
文学部	真宗	2	59	40
	仏教	5		187
	哲学・哲学	5		53
	哲学・教育	2		2
	臨床心理	3		20
	歴史・日本史	6		35
	歴史・東洋史	16		10
	歴史・仏教史	2		4
	歴史・文化遺産学	6		1
	歴史(専攻聞き取り不備)	—		6
	日本語日本文学	7		87
	英語英米文学	5		9
	その他	—		10
	経済学部	—		6
現代経済		0	10	
国際経済		6	6	
経営学部	経営	15	15	30
法学部	法律	8	8	48
政策学部	政策	27	27	38
国際学部	グローバルスタディーズ	39	144	146
	国際文化	104		143
	—	1		0
先端理工	数理・情報科学	0	4	—
	知能情報メディア	0		—
	電子情報通信	0		—
	機械工学・ロボティクス	2		—
	応用化学	2		—
	環境生態工学	0		—
理工学部	数理情報	1	2	2
	情報メディア	0		25
	電子情報	1		3
	機械システム工学	0		26
	物質化学	0		6
	環境ソリューション工学	0		5
社会学部	社会	41	82	178
	コミュニティマネジメント	18		51
	現代福祉	19		50
	地域福祉	4		0
農学部	植物生命科	5	18	30
	資源生物科	1		30
	食品栄養	3		6
	食料農業システム	9		44
短期大学部	社会福祉	4	8	11
	こども教育	4		0
文学研究科	真宗学	5	5	21
	仏教学	0		32
法学研究科		0	0	2
政策学研究科		0	0	1
国際文化学研究科		4	4	4
実践真宗学研究科		0	0	1
合 計		388	388	1,422

(5) 利用者の満足度
(最高値 10、最低値 1)



(6) 広報の効果
(相談者アンケートによる)

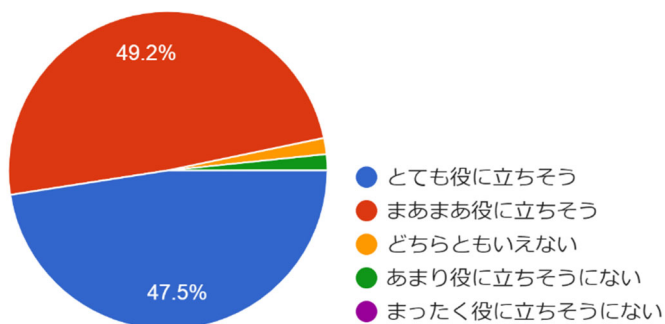


*その他は、障害学習支援室の方に聞いて、オンライン講習会を聞いて、自分もライティングチューターをしていて。

(7) オンライン講習会

講習テーマ	実施日	時間帯	予約者数	参加者		概要
				人数	予約者数に対する割合	
レポートに備えよう	①6月26日(金)	12:30~(40分程度)	121	72	59.5%	レポートのタイプを知ることからはじまり、論証型レポートにおける序論・本論・結論の役割を解説。とくに序論での書くべきポイント、本論で根拠を示す際の留意点を説明。
	②6月29日(月)	12:45~(40分程度)	91	77	84.6%	
卒業論文・卒業研究をスムーズに作成するために～論文の基本、再確認!～	③10月21日(水)	12:30~(40分程度)	165	106	64.2%	論文における序論・本論・結論の役割を解説した。とくに序論での書くべきポイント、本論で根拠を示す際の留意点を解説した。
	④10月23日(金)	12:45~(40分程度)	121	78	64.5%	

【オンライン講習会参加者の評価】



*2020年度は、以上のほかに、図書館（瀬田のみ）との連携として、ライティング関連本の展覧をおこなった。また、教員からの依頼でオンラインによる出張講習1件を実施した。

お願い

学生へのライティングサポートセンター周知について

ライティングサポートセンター（以下、センター）を学生に周知していただきたくご依頼申し上げます。ご協力くださいますようお願い申し上げます。

センターでは、学生へのアカデミックライティングの指導を主な目的として、「学生に考えさせる」（答えを教えない）ことを基本姿勢に、大学院生を中心としたチューターがレポートや論文作成など、書くことに関するサポートを行っています。センターへのご意見やご質問などがございましたら、下欄の【連絡先】まで、お寄せください。

【ご依頼の内容】

学生にライティングサポートセンターについて、以下の事項をご紹介ください。

- 1) レポートや論文、レジュメなどを作成するにあたって、ライティングサポートセンターを予約の必要なく利用できます。たとえば、次のようなケースで利用してください。
 - 文章に自信がないので他の人に意見を聞きたい。
 - 資料の探し方や使い方がわからない。
 - レポート課題や卒業論文などについて、どのように取り組めばよいのかわからない。
- 2) ライティングサポートセンターの開室曜日・時間などの基本情報
本年度前期は、オンライン対応です。昨年度と同じく、google meet による対応を主とします。

開室曜日：4月19日(月)～8月3日(火) 月～金 *授業実施日(補講日を除く)

相談枠：11:30、13:00、14:30、以上3枠の時間帯を予約時に選択

予約方法：ポータルアンケート機能利用

*相談や予約の方法に関する詳細は、以下をご参照ください。

<https://www.ryukoku.ac.jp/writingsupport/>



Ryukoku University

Writing Support Center News Letter

No.003

編集：教学企画部

<https://ryukoku.ac.jp>

【連絡先】

○ ライティングサポートセンター

メール：wsc@ad.ryukoku.ac.jp

○ 教学企画部 担当：奥田・荒木（内線 1050、1052）